水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第13集

杉の堂遺跡

ー市道杉の堂・北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅱー

1999

財団法人　水沢市埋蔵文化財調査センター

序　　文

杉の堂遺跡周辺は、近年、宅地化が急激に進行している地域であり、また、市立東水沢中学校の移転新築により、通学路の一部としての道路拡幅整備も計画されました。そのため、本調査は、市道杉の堂北田線拡幅工事の事前調査として、２期間に分け実施したものです。

杉の堂遺跡は、特に縄文時代晩期の遺跡として全国的にも知られ、学術調査を含めた過去の調査では、縄文時代晩期だけでなく、奈良・平安時代の遺跡としても貴重な発見がなされています。

本報告ではこうした過去の調査成果にもとづきながら慎重な調査を行った結果をまとめたものです。調査の結果、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡４棟、井戸跡２基などが検出され、遺物ではロクロ未使用・使用の土器、土製勾玉などが発見されました。今後の周辺での調査結果と合わせ、杉の堂遺跡全体の歴史の姿を把えられることが期待されます。

発掘調査および報告書作成にあたり、各関係機関、研究に携わっておられる方がたのご支援ご指導と、地元の調査作業員の皆様に対し、心から御礼申し上げますとともに、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年３月

水沢市埋蔵文化財調査センター
所長　朴　澤　正　耕

例　　言

1．本書は、岩手県水沢市杉の堂地内に所在する杉の堂遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は、市道杉の堂北田線改良工事に伴う事前調査として実施されたものであり、水沢市の委託により水沢市教育委員会の指導のもとに財団法人水沢市文化振興財団水沢市埋蔵文化財調査センターが行った。
3．調査対象面積は1,452㎡で、本調査面積1,030㎡である。
4．発掘調査は平成10年７月24日から同年10月９日と平成10年11月30日から同年12月19日まで行い、以降平成11年３月31日まで室内整理作業を行った。
5．発掘調査は千田幸生・佐藤良和が担当した。
6．本書の執筆・編集は千田が行い佐藤良和・青木綾子・小野寺ふく子・千田サノ子・千田ミツ子・千田友子・林　賢弥・渡辺弘子の協力を得た。
7．発掘調査により得られたすべての資料は水沢市埋蔵文化財調査センターに保管している。
8．航空写真はアクト企画（水沢市真城）に委託した。
9．発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸氏・機関に御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第であります。
　水沢市土木課・㈱板谷組
10．発掘調査参加者
　青木綾子・小野久蔵・小野芳子・小野寺ふく子・亀井恵美公・熊谷庄吾・熊谷セツ・熊谷ワカ・佐藤正吉・千田ミツ子・渡辺誠一・渡辺弘子

凡　　例

1．第１・２図は国土地理院発行20万分の１「一関・新庄」２万５千分の１「水沢」を複製して使用し、第３図は水沢市発行２千５百分の１地形図を使用した。
2．座標は第Ⅹ系国家公共座標を用い、挿図中の方位は真北を示す。
3．本書で使用する遺構表示略図記号は下記による。
　ＳＩ：竪穴住居跡　ＳＫ：土坑跡　ＳＥ：井戸跡　ＳＤ：溝跡
4．本報告における土色の記述については『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄　1995年度版）を使用した。
5．本書で使用しているスクリーントーンは下記の通りである。

……地山

……焼土

……内面黒色処理

……灰釉（自然釉）

目　　次

序　　文
例　　言
凡　　例

本 文 目 次

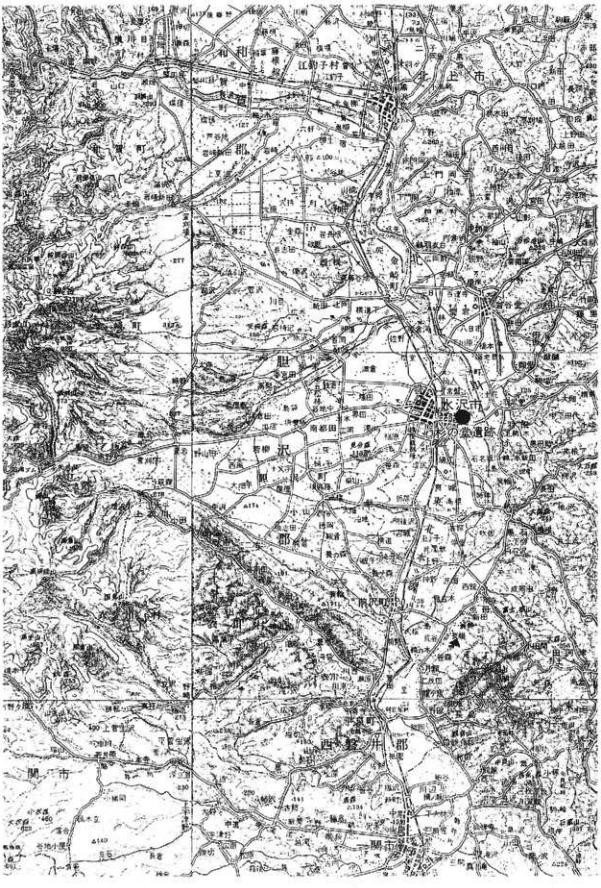
Ⅰ　遺跡の位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査の経過 …… 3
Ⅲ　土層 …… 3
Ⅳ　検出遺構・遺物 …… 5
Ⅴ　まとめ …… 20
抄　　録

挿 図 目 次

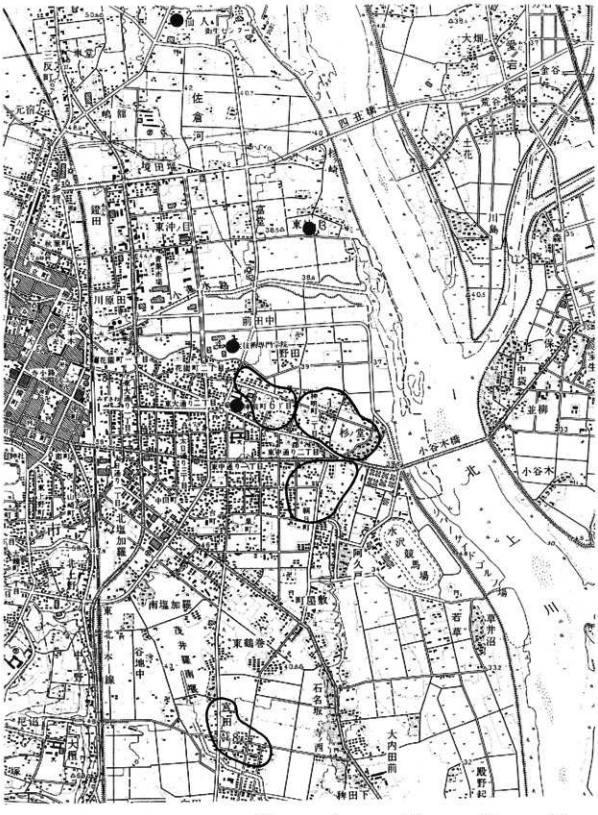
第１図　遺跡位置図 …… 序
第２図　杉の堂遺跡と周辺の遺跡 …… 序
第３図　杉の堂遺跡周辺地形図 …… 2
第４図　土層図 …… 3
第５図　調査区位置図 …… 4
第６図　調査区南側全体図 …… 4
第７図　調査区北側全体図 …… 4
第８図　ＳＩ01竪穴住居跡 …… 5
第９図　ＳＩ01竪穴住居跡出土遺物 …… 6
第10図　ＳＩ02竪穴住居跡・ＳＫ01土坑跡 …… 7
第11図　ＳＩ02竪穴住居跡出土遺物 …… 8
第12図　ＳＩ03竪穴住居跡・ＳＥ01井戸跡 …… 9
第13図　ＳＩ03竪穴住居跡出土遺物 …… 10
第14図　ＳＩ04竪穴住居跡 …… 11
第15図　ＳＩ04竪穴住居跡出土遺物 …… 12
第16図　ＳＥ01井戸跡出土遺物 …… 13
第17図　ＳＥ02井戸跡 …… 13
第18図　ＳＥ02井戸跡出土遺物（１）…… 14
第19図　ＳＥ02井戸跡出土遺物（２）…… 16
第20図　ＳＫ01土坑跡出土遺物 …… 17
第21図　ＳＤ01溝跡 …… 18
第22図　ＳＤ02溝跡 …… 18
第23図　ＳＤ03・04溝跡 …… 19
第24図　ＳＤ05溝跡 …… 19
第25図　遺溝外出土遺物 …… 20

図 版 目 次

図版１－１　調査区南側全景
　　２　ＳＩ01竪穴住居跡調査状況
　　３　ＳＩ01竪穴住居跡遺物出土状況
　　４　ＳＩ01竪穴住居跡出土遺物
　　５　ＳＩ01竪穴住居跡カマド調査状況
　　６　ＳＩ01竪穴住居跡カマド遺物出土状況
　　７　ＳＩ01竪穴住居跡カマド出土遺物
　　８　ＳＩ01竪穴住居跡完掘
図版２－１　ＳＩ01竪穴住居跡掘り方
　　２　ＳＩ01竪穴住居跡カマド焼土立割り
　　３　ＳＩ02竪穴住居跡完掘
　　４　ＳＩ03竪穴住居跡調査状況
　　５　ＳＩ03竪穴住居跡完掘
　　６　ＳＩ03竪穴住居跡カマド調査状況
　　７　ＳＩ03竪穴住居跡カマド煙道調査状況
　　８　ＳＩ03竪穴住居跡カマド完掘
図版３－１　ＳＩ04竪穴住居跡遺物出土状況
　　２　ＳＩ04竪穴住居跡完掘
　　３　ＳＩ04竪穴住居跡カマド調査状況
　　４　ＳＩ04竪穴住居跡カマド煙道調査状況
　　５　ＳＩ04竪穴住居跡カマド袖調査状況
　　６　ＳＩ04竪穴住居跡カマド完掘
　　７　ＳＩ04竪穴住居跡カマド掘り方
　　８　ＳＩ04竪穴住居跡南東側掘り方
図版４－１　ＳＥ01井戸跡完掘
　　２　ＳＥ02井戸跡調査状況（１）
　　３　ＳＥ02井戸跡遺物出土状況
　　４　ＳＥ02井戸跡調査状況（２）
　　５　ＳＥ02井戸跡完掘
　　６　ＳＫ01土坑跡遺物出土状況
　　７　ＳＤ01溝跡調査状況
　　８　ＳＤ01溝跡完掘
図版５－１　ＳＤ02溝跡調査状況
　　２　ＳＤ02溝跡完掘
　　３　ＳＤ03・04溝跡完掘
　　４　ＳＤ05溝跡完掘
　　５　北側空撮
図版６－１　中央部空撮
　　２　遺跡全景（空撮）
図版７－１　ＳＩ01竪穴住居跡出土遺物
　　２　ＳＩ02竪穴住居跡出土遺物
　　３　ＳＩ03竪穴住居跡出土遺物
図版８－１　ＳＩ04竪穴住居跡出土遺物
　　２　ＳＥ01井戸跡出土遺物
図版９　ＳＥ02井戸跡出土遺物（１）
図版10－１　ＳＥ02井戸跡出土遺物（２）
　　２　ＳＫ01土坑跡出土遺物
　　３　遺構外出土遺物



第１図　遺跡位置図



1. 杉の堂遺跡　2. 仙人西遺跡　3. 東袖ノ目遺跡　4. 常盤広町遺跡　5. 常盤小学校遺跡
6. 跡呂井遺跡群　7. 熊之堂遺跡　8. 林前遺跡群

第2図　杉の堂遺跡と周辺の遺跡

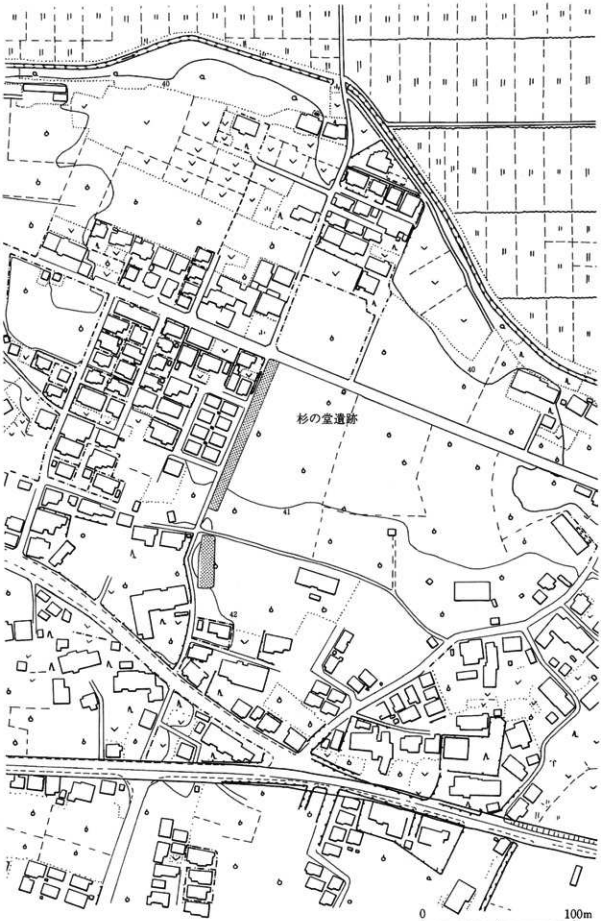
Ⅰ　遺跡の位置と環境

杉の堂遺跡は北上川右岸、水沢市街地の東方約２㎞、胆沢扇状地の下位段丘である水沢段丘に位置する。胆沢扇状地は胆沢町若柳の市野々を扇頂部とし、北西を胆沢川、南西を衣川（北股川）で限る半径約20㎞の広大な扇状地で東側は北上川に及んでいる。この胆沢扇状地は西から東へ傾斜するとともに南から北へも傾斜し、上位・中位・下位の各段丘を発達させ、各々一首坂・胆沢・水沢の各段丘があてられている。この水沢段丘も上位・下位に分けられ、本遺跡は上位段丘上にある。遺跡の東側は北上川の侵食崖により限られ、北側は水沢段丘下位面の谷底平野となる。標高41ｍ前後で水沢段丘下位面との比高は４～５ｍである。国道397号線で画された南側には奈良時代の大規模集落跡である熊之堂遺跡（７）、西側には奈良時代から中世にかけての複合遺跡である跡呂井遺跡群（６）が位置する。

本遺跡周辺はその他にも縄文時代晩期を中心とする東袖ノ目遺跡（３）、弥生時代の著名な遺跡である常盤広町遺跡（４）、奈良時代の集落跡である常盤小学校遺跡（５）・平安時代の大規模集落跡及び中世の遺構が検出された林前遺跡群（８）、中世の城館が検出された仙人西遺跡（２）等が存在する。古墳時代では西約６㎞に最北の前方後円墳である角塚古墳が位置する。また802年造営の国指定史跡胆沢城跡が北北西約５㎞に位置する。

本遺跡は佐倉河字杉の堂地区の他、神明町二丁目、東中通り二丁目、真城字熊之堂の一部を含む地域にわたっており、1997年度まで16次の発掘調査が行われている。今年度は３カ所で調査が行われ、本報告は第18次調査となる。これまでの調査で縄文時代晩期の遺構・遺物は東側の段丘崖に沿っていることが(註１～５)、南縁辺と北縁辺部は奈良時代の後半から平安時代にかけての集落跡であることが(註６～16)判明している。今年度の調査区は遺跡のほぼ中央部にあたり、標高は40～42ｍで、南側がやや高くなる。現況は果樹園・市道である。

註１　桜井清彦・杉山荘平「岩手県水沢市杉の堂遺跡調査概報『史観　第61冊』1961年
註２　林謙作他『杉の堂遺跡－第３次発掘調査概報－』水沢市教育委員会　1981年
註３　林他『杉の堂遺跡－第４次発掘調査概報－』同　1982年
註４　林他『杉の堂遺跡－第５次発掘調査概報－』同　1983年
註５　19次調査で従来縄文時代晩期の遺物が集中する地区のわずか北側で縄文時代中期後半から後期初頭にかけての遺構・遺物が奈良・平安時代の竪穴住居跡と共に検出されている。
註６　伊藤博幸・佐久間賢・土沼章一『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和60年度発掘調査概報』同　1986年
註７　伊藤・佐久間・土沼『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和61年度発掘調査概報』同　1987年
註８　伊藤・佐久間・土沼『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和62年度発掘調査概報』同　1988年
註９　伊藤・佐久間『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和63年度発掘調査概報』同　1989年
註10　伊藤・佐久間『水沢遺跡群範囲確認調査－平成元年度発掘調査概報』同　1990年
註11　伊藤・佐久間・及川洵『水沢遺跡群範囲確認調査－平成３年度発掘調査概報』同　1992年
註12　佐々木千鶴子・高橋千晶『杉の堂遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター　1996年
註13　伊藤博幸・千田政博『杉の堂遺跡群－跡呂井二ツ梗地区の調査－』同　1997年
註14　千田幸生・永野志郎『水沢遺跡群範囲確認調査－平成９年度発掘調査概報』水沢市教育委員会　1998年
註15　佐々木千鶴子・永野志郎『杉の堂遺跡－市道杉の堂北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ』水沢市埋蔵文化財調査センター　1998年
註16　17次調査として遺跡北側、註15の西側で調査を行い、奈良・平安時代の竪穴住居跡等が検出されている。



第3図　杉の堂遺跡と周辺地形図

Ⅱ　調査の経過

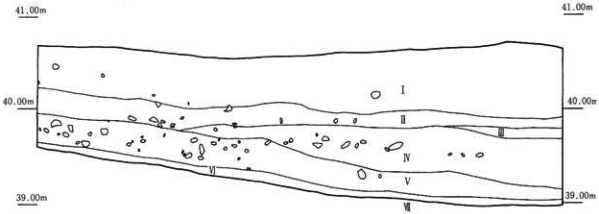
調査は平成10年７月24日開始し、同年10月９日に終了した。その後北側道路部分の調査が必要と思われ、市教育委員会文化財係と協議し、道路部分の調査を（対象面積約50㎡）同年11月30日～12月19日まで行った。

７月24日	調査開始。草刈り作業を行う。
７月28日～10月９日	遺構調査。
10月４日	バルーンによる空撮。
11月30日	現有道路部分の調査開始。アスファルト剥がし及び表土排土を行う。
12月２日～12月19日	遺構調査。

Ⅲ　基本層序

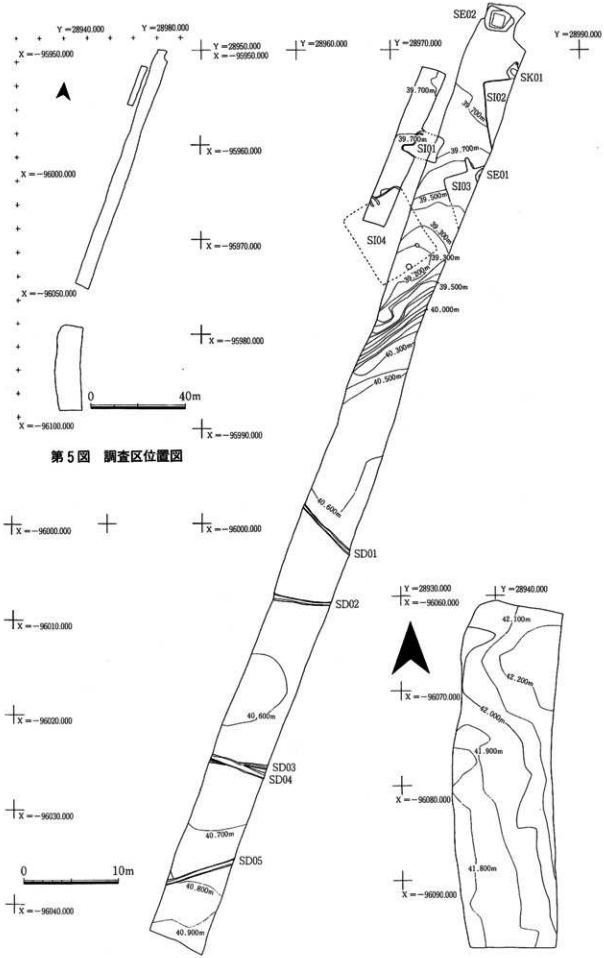
本遺跡の調査区は南北に長く遺跡の北側を北東方向から南西方向に浅い埋没谷が入り込む。遺跡南側はⅢ～Ⅴ層が観察されずⅡ・Ⅵ層が所々で見られ、Ⅶ層の基盤層となる。古代の遺構は北側に集中しⅣ層の黒色土から掘り込まれている。

Ⅰ層	10YR3/3	暗褐色土	表土。締まり粘性あまりない。
Ⅱ層	10YR2/3	黒褐色土	締まり良く、粘性ややある。
Ⅲ層	10YR2/2	黒褐色土	締まり粘性共にある。
Ⅳ層	10YR2/1	黒色土	褐色軽石（φ１～５㎜）を少量含む。締まりややあり粘性ある。所々礫（φ５～50㎜）が見られる。
Ⅴ層	10YR2/2	黒褐色土	褐色軽石（φ１～10㎜）を少量含む。締まり粘性共にある。所々礫（φ５～50㎜）が少量見られる。
Ⅵ層	10YR4/4	褐色土	漸移層。
Ⅶ層	10YR5/8	明黄褐色土	基盤層。所々礫が多く見られる。



第４図　土層図

第５図　調査区位置図



第７図　調査区北側全体図

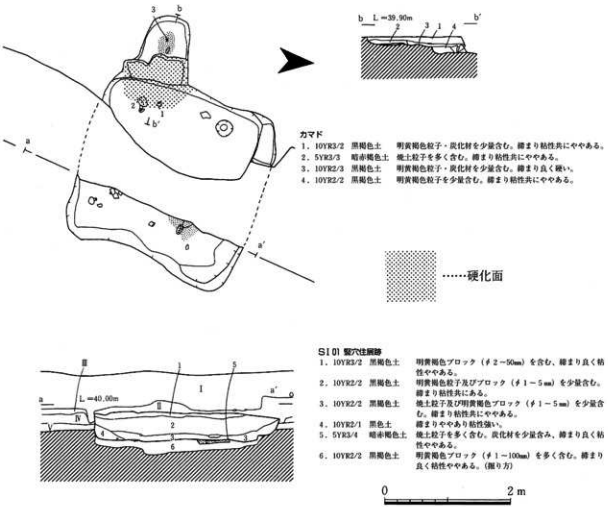
第６図　調査区南側全体図

Ⅳ　検出遺構・遺物

本遺跡で検出された遺構は竪穴住居跡４棟、土坑跡１基、溝跡５条、井戸跡２基である。竪穴住居跡・井戸跡・土坑跡は古代の所産と思われ遺跡北側に集中する。溝跡は遺跡中央部で検出され、遺跡の南側はリンゴの植栽痕以外は検出されなかった。

SI 01竪穴住居跡（第８図・図版１－２～８・２－１・２）

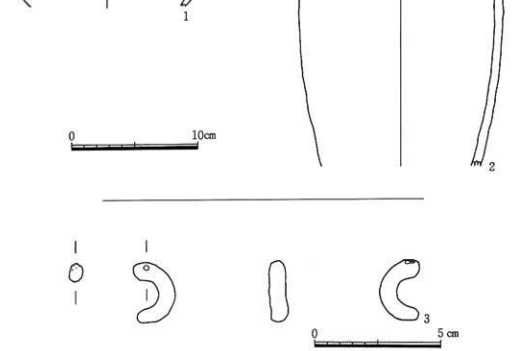
本跡は調査区北側で検出された。一次調査で東側の一部を検出し、ＳＸ01竪穴状遺構として調査を行った。その後二次調査で西側にカマドを有する竪穴住居跡であることが判明した。平面形は方形を呈するものと思われ、主軸方向はＮ－81°Ｗである。規模は東西2.9ｍ、南北2.9ｍである。掘り込みはⅣ層上面からで、床面までは最大で40㎝である。床面はⅦ層中にあり、踏み固めは弱い。東側は貼り床が認められ、一部焼土痕が認められる。ピットは１基検出され深さは23㎝である。壁溝は検出されない。覆土は４層に分けられ、自然堆積を示す。カマドは西壁の南よりで検出された。袖は検出されない。カマド周辺は一部黒褐色土（カマド土層３の上面）の硬化面が楕円状に認められた。火床部は壁外にある。遺物は床面から少量出土しており、カマド内から土製の勾玉が出土している。



第８図　SI01竪穴住居跡

SI 01竪穴住居跡出土遺物（第９図・図版７－１）

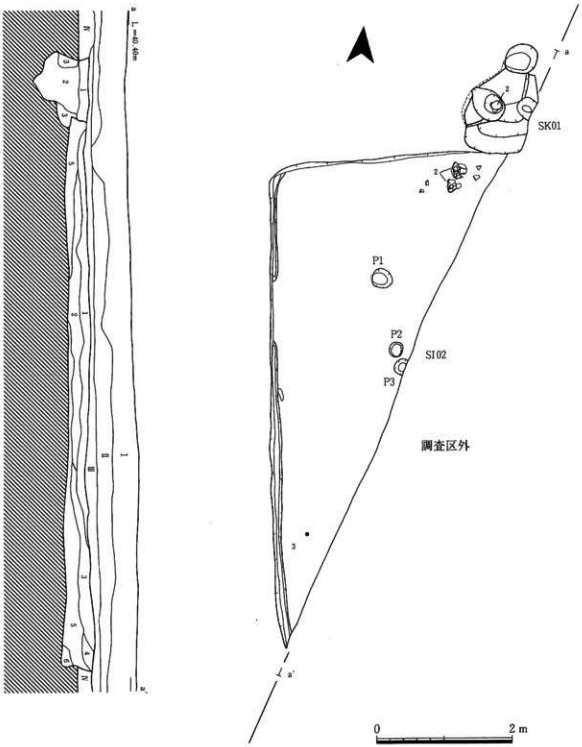
図示した土師器甕・土製勾玉の他に確認面や覆土からロクロ成形、内面黒色処理土師器坏の破片やロクロ未使用と思われる土師器甕の破片が少量出土している。**1**は土師器小型甕か鉢の口縁部片。西側カマド周辺の硬化面の下の床着出土。外面体部上半ヘラケズリ。推定口径16.8㎝。胎土：砂粒・石英・長石含む。焼成：酸化・やや不良。色調：外面：2.5Ｙ R7/4淡赤橙色、内面：10Ｙ R5/2灰黄褐色。**2**は南西側カマド周辺の硬化面の下の床着で出土した土師器甕。器壁荒れている。口縁部内・外面横ナデ。外面ハケメ、内面ヘラナデ。推定口径20.7㎝。胎土：砂粒やや多く含む。焼成：酸化・やや不良。色調：内・外面：2.5Ｙ R8/3浅黄色。**3**は土製の勾玉。完形。カマド内出土。ナデ整形。全長2.4㎝、最大幅0.7㎝、孔幅0.2㎝。胎土：砂粒少量含む。焼成：酸化・良好。色調：7.5Ｙ R7/6橙色。



第９図　SI01竪穴住居跡出土遺物

SI 02竪穴住居跡（第10図・図版２－３）

本跡は調査区北東側で検出された。東側のほとんどが調査区外となる。北側でＳＫ01土坑跡と接する。平面形は方形を呈するものと思われ、規模は西壁で７ｍ以上あり、大型の竪穴である。掘り込みはⅣ層からで、床面までは最大で42㎝である。覆土は６層に分けられ自然堆積である。床面はⅥ層上面に築かれほぼ平坦で踏み固めは弱い。ピットは３基検出され深さはＰ１は46㎝、Ｐ２は12㎝、Ｐ３は17㎝である。周溝は西側で検出された。カマドは不明であるが北壁調査区際でわずかに焼土が認められ、北壁に付設されているものと思われる。遺物はごく少量出土している。



SI 02竪穴住居跡

1．10YR2/2　黒褐色土　明黄褐色粒子を微量含む。締まり良く粘性ある。
2．10YR3/2　黒褐色土　炭化材・明黄褐色粒子を少量含む。締まり粘性共にある。
3．10YR3/2　黒褐色土　明黄褐色粒子をやや多く含む。締まり粘性共にある。
4．10YR3/3　暗褐色土　明黄褐色ブロック（φ1－10cm）を含む。締まり粘性共にややある。
5．10YR2/3　黒褐色土　明黄褐色ブロック（φ1－10cm）及び炭化材を少量含む。締まり粘性共にややある。
6．10YR3/3　暗褐色土　明黄褐色粒子及びブロック（φ1－20cm）をやや多く含む。締まりややあり粘性強い。

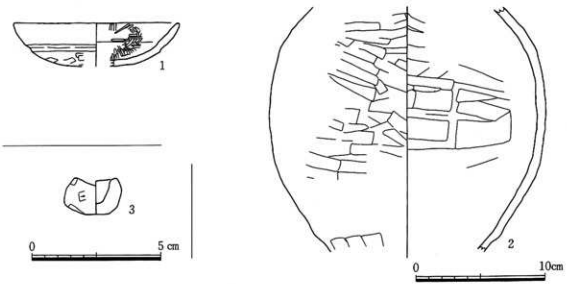
SK01土坑跡

1．10YR2/3　黒褐色土　炭化材を少量含む。締まり粘性共にややある。
2．10YR2/2　黒褐色土　明黄褐色粒子及びブロック（φ1－20cm）を少量含む。締まり粘性共にややある。
3．10YR3/3　暗褐色土　黄褐色粒子を多く含む。締まり粘性共にややある。

第10図　SI02竪穴住居跡・SK01土坑跡

SI 02竪穴住居跡出土遺物（第11図・図版７－２）

1は土師器坏。床面下握り方出土。丸底。体部外面に段を有し、対応する内面にもわずかに痕跡が認められる。外面底部周辺手持ちヘラケズリ、内面ミガキ。推定口径12.9㎝、器高3.4㎝、胎土：砂粒やや多く含む。焼成：酸化・良好。色調：内・外面：7.5YR6/6にぶい橙色。**2**は土師器甕。口縁部及び底部欠損。北側床面出土。体部中央に最大径を有すると思われる球胴甕。体部最大径21.9㎝。胎土：砂粒やや多く含む。焼成：酸化・やや不良。色調：内・外面：10ＹＲ8/6にぶい黄橙色。**3**はミニチュア土器。ほぼ完形。手捏ね成形。南側床面出土。丸底で外面にヘラケズリを施す。口径1.8㎝、器高1.4㎝。胎土：砂粒を少量含み緻密。焼成：酸化・良好。色調：内・外面：2.5Ｙ2/1黒色。



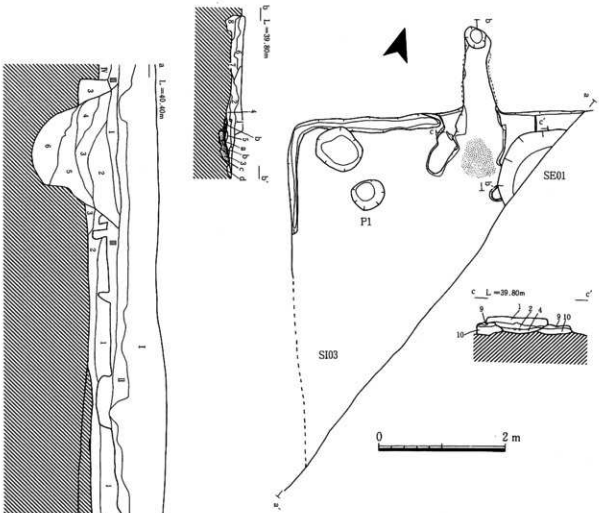
第11図　SI02竪穴住居跡出土遺物

SI 03竪穴住居跡（第12図・図版２－４～８）

本跡は調査区北側で検出された。東側は調査区外となる。北側でＳＥ01井戸跡と重複し本跡が古い。平面形は方形を呈するものと思われ、主軸方向はＮ－16°Ｗである。規模は西壁で5.5ｍ以上ある。掘り込みはⅣ層からで床面までは40㎝である。床面はⅤ～Ⅵ層中に築かれほぼ平坦で踏み固められている。覆土は３層に分けられ自然堆積である。北西側に浅い掘り込み（深さ19㎝）が認められる。周溝は検出部では認められる。ピットは１基検出され深さ43㎝である。カマドは北壁調査区際で検出された。袖は主に灰白色粘土で構築され基底部は黒色土であるが依存状態が悪い。煙道部の壁外への掘り込みは70㎝で緩やかに立ち上がる。煙出し部は径38㎝、深さ30㎝である。火床部は65㎝×50㎝の卵形を呈する。遺物はロクロ未使用の土師器坏・甕の破片がごく少量出土している。

SI 03竪穴住居跡出土遺物（第13図・図版７－３）

1は内面黒色処理の土師器坏。口縁部から体部にかけての破片で、覆土中出土。外面ヘラケズリ。内面ミガキ。推定口径15.2㎝。胎土：砂粒・長石・石英少量含む。焼成：酸化･良好。色調：外面：7.5ＹＲ7/6橙色。**2**は須恵器甕・壺類の底部片。覆土中出土。ロクロ成形。外面体部下端手持ちヘラケズリ。推定底径12.9㎝。胎土：長石少量含み緻密。焼成：還元・やや不良。色調：内・外面：5ＹＲ5/3にぶい赤褐色。**3**は須恵器甕の体部片。覆土中出土。外面格子目叩き。内面平行当て具痕。胎土：黒色鉱物微量含み緻密。焼成：還元・良好。色調：外面：7.5ＹＲ4/1灰色、内面：2.5ＹＲ6/1黄灰色。



カマド

1．10YR2/3	黒褐色土	締まり良く粘性あまりない。
2．10YR4/6	褐色土	焼土ブロックを含む。締まり良く粘性ややある。上部構造の崩壊土。
3．10YR3/4	暗褐色土	焼土ブロックを少量含む。締まり良く粘性ややある。
4．10YR3/4	暗褐色土	焼土粒子を少量含む。締まりややあり粘性ある。
5．7.5YR3/4	暗褐色土	締まりややあり粘性ある。
6．10YR2/3	黒褐色土	黄褐色粒子をやや多く含む。焼土粒子を少量含み、締まり良く粘性ややある。
7．10YR3/4	暗褐色土	焼土粒子をやや多く含む。黄褐色粒子を少量含み、締まり粘性共にややある。
8．10YR2/3	黒褐色土	黄褐色粒子及び炭化材を少量含む。締まり良く粘性ややある。

袖

9．10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘質土。締まり粘性共にある。
10．10YR2/1	黒色土	黄褐色ブロック（φ1～20mm）を含む。締まり粘性共にややある。
a．5YR4/4	にぶい赤褐色土	焼土粒子を多く含む。（掘り方）
b．	焼土化	
c．	焼土化	
d．10YR3/4	暗褐色土	黄褐色粒子を含む。締まり良く粘性ややある。（掘り方）

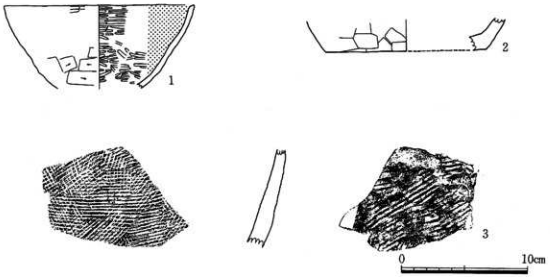
SI03竪穴住居跡

1．10YR3/2	黒褐色土	明黄褐色粒子及び炭化材を少量含む。締まり粘性共にややある。
2．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色ブロック（φ1～5mm）及び炭化材を少量含む。締まり粘性共にある。
3．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色粒子及びブロック（φ1～10mm）をやや多く含む。締まり粘性共にある。

SE01井戸跡

1．10YR3/2	黒褐色土	明黄褐色粒子及び炭化材を少量含む。締まり粘性共にある。
2．10YR3/2	黒褐色土	明黄褐色ブロック（φ1～20mm）をやや多く含む。締まり粘性共にややある。
3．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色ブロック（φ2～30mm）を多く含む。締まり粘性共にややある。
4．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色ブロック（φ1～20）をやや多く含む。締まり粘性共にややある。
5．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色ブロック（φ1～50mm）を多量含む。炭化材を少量含み締まりあまりなく粘性ややある。
6．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色ブロック（φ1～20mm）を多く含む。締まりなく粘性ある。

第12図　SI03竪穴住居跡・SE01井戸跡



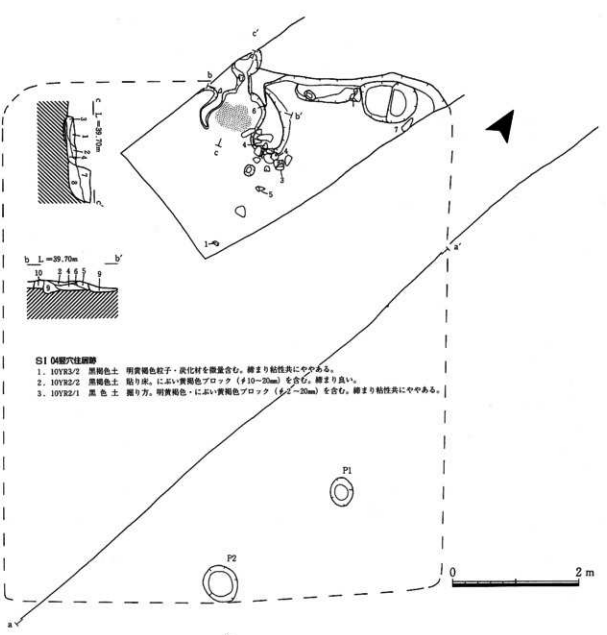
第13図　SI03竪穴住居跡出土遺物

SI 04竪穴住居跡（第14図・図版3）

本跡は調査区北西側で検出された。西側は調査区外となる。南側と中央部は未調査である。平面形は方形を呈するものと思われ、主軸方向はN－32°Wである。規模は東壁で推定8ｍである。掘り込みはⅣ層からで床面までは最大で40㎝である。床面はⅤ～Ⅶ層中に築かれほぼ平坦で踏み固められており、東側は一部貼り床が認められ、掘り方も観察された。覆土は黒褐色土の単層である。北東側には浅い貯蔵穴状の掘り込みが認められる。周溝は北側で検出された。ピットは2基検出され床面からの深さはＰ１が42㎝、Ｐ２が45㎝でＰ２の覆土中には焼土粒子・炭化材が混じる。カマドは西壁調査区際で検出された。袖は主に灰黄褐色粘質土で構築されるが依存状態は悪い。煙道部は調査区外へ伸びるものと思われる。遺物は床面を中心に少量出土している。

SI 04竪穴住居跡出土遺物（第15図・図版8－1）

1は須恵器坏の口縁部から底部の破片。床面出土。ロクロ成形。外面底部回転ヘラ切り無調整。推定口径13.8㎝、器高3.4㎝、推定底径9.2㎝。胎土：礫・長石少量含む。焼成：還元・良好。色調：内・外面：7.5Y7/1灰白色。**2**は須恵系土器の坏。底部欠損。確認面出土。ロクロ成形。推定口径11.8㎝。胎土：砂粒・長石・石英少量含む。焼成：酸化・良好。色調：内・外面：10Y R7/4にぶい黄橙色。**3**は内面黒色処理の土師器坏。カマド付近床面出土。ほぼ完形。平底。体部内・外面に形骸化した段を有する。体部下端と底部手持ちヘラケズリ。内面ミガキ。口径14.8㎝、器高4.6㎝、底径6.0㎝。胎土：砂粒・長石・石英少量含む。焼成：酸化・良好。色調：外面：7.5Y R7/6橙色。**4**は内面黒色処理の土師器鉢。カマド付近床面出土。½残存。体部下端手持ちヘラケズリ。内面ヘラミガキ。推定口径21㎝、器高8.7㎝、推定底径10.0㎝。胎土：砂粒やや多く含む。焼成：酸化・良好。色調：外面：10Y R7/6明黄褐色。**5**は土師器甕の底部片。カマド付近床面出土。内・外面ハケメ整形。底径9.3㎝。胎土：砂粒・長石・石英少量含む。焼成：酸化・良好。色調：内・外面10Y R8/6黄橙色。**6**はミニチュア土器。手捏ね成形。カマド内出土。½残存。かなり摩耗している。推定口径4.2㎝、器高2.55㎝。胎土：砂粒やや多く含む。焼成：酸化・良好。色調：内・外面：10Y R8/4浅黄橙色。**7**は抉りの入る棒状礫・床面出土。一部欠損。抉りの入る部分に使用痕（擦痕）が認められる。石材：安山岩、重量1,040ｇ。一部熱を受けている。



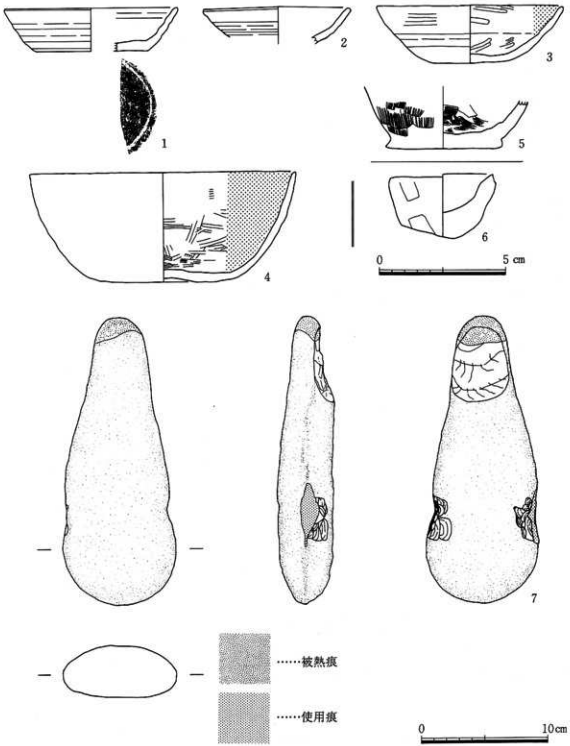
カマド

1．10YR3/2	黒褐色土	明黄褐色粒子をやや多く含む。焼土粒子・灰黄褐色粘土を少量含み、締まりなく粘性ややある。
2．10YR3/2	黒褐色土	灰黄褐色粘土を多く含む。焼土粒子・明黄褐色粒子を少量含み、締まり粘性共にややある。
3．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色粒子・焼土粒子・灰黄褐色粘土を少量含み、締まり粘性共にややある。
4．5YR3/3	暗赤褐色土	焼土粒子を多く含む。炭化材を含み、締まり粘性共にある。
5．10YR2/3	黒褐色土	灰黄褐色粘土を少量含む。締まり粘性共にややある。
6．7.5YR5/4	にぶい褐色土	焼土粒子・灰黄褐色粘土を少量含む。締まり粘性共にややある。
7．10YR3/2	黒褐色土	締まり粘性共にややある。
8．10YR2/2	黒褐色土	明黄褐色粒子を少量含む。締まり粘性共にややある。

袖

9．10YR4/4	褐色土	黄褐色土と黒褐色土の互層。締まり良く硬い。
10．10YR4/4	褐色土	黄褐色土と黒褐色土が混じる。締まり良く硬い。

第14図　SI04竪穴住居跡



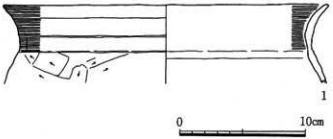
第15図　SI04竪穴住居跡出土遺物

SE01井戸跡（第12図・図版4-1）

本跡は調査区北東側で検出された。ＳＩ03竪穴住居跡を切って構築されている。東側は調査区外となる。プランは円形を呈するものと思われ、検出した部分の最大の深さは132㎝で断面擂り鉢状となる。断面観察による掘り込みはⅢ層上面からで覆土は６層に分けられ自然堆積である。底面付近は湧水していた。遺物は少量出土しているが、ＳＩ03竪穴住居跡と同時期と思われ、流れ込みと思われる。井戸側等は出土していない。

SE01井戸跡出土遺物(第16図・図版8-2)

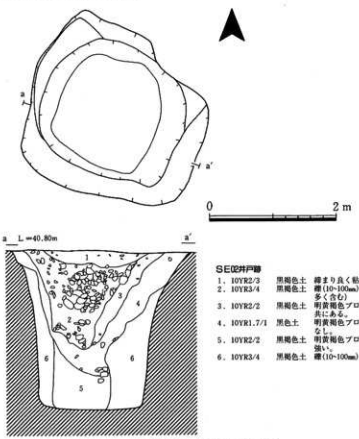
1は土師器甕の口縁部片。覆土中出土。口縁部内・外面横ナデ。外面体部上半ヘラケズり。推定口径25.8cm。胎土：砂粒・礫・長石少量含む。焼成：酸化・良好。色調：内・外面：5YR6/8橙色。



第16図　SE01井戸跡出土遺物

SE02井戸跡（第17図・図版4-2～5）

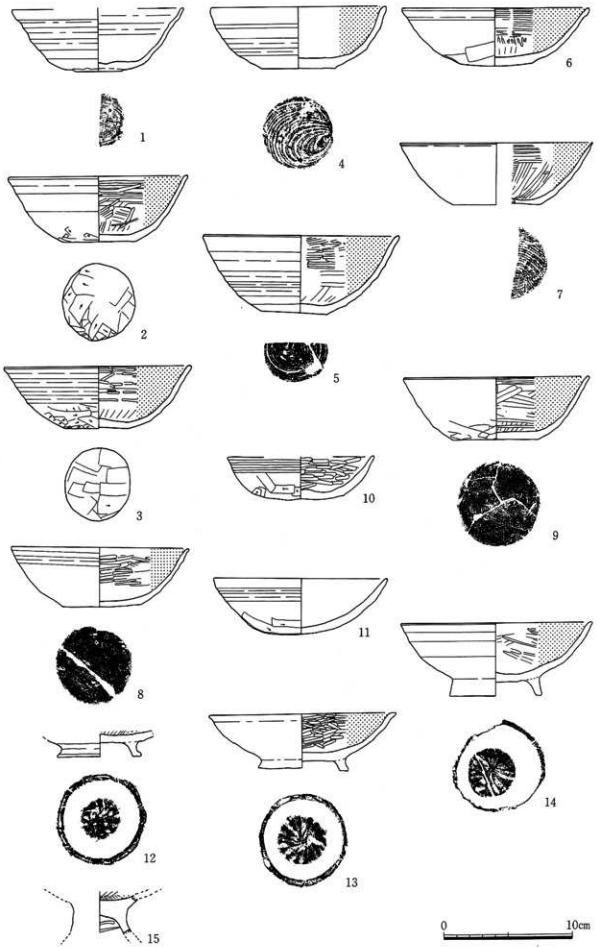
本跡は調査区北側で検出された。検出面でのプランは方形を呈し、底部にいくに従って円形に近くなる。確認面はⅥ層上面で規模は東西2.8m、南北2.7mで深さ250cmである。底部は礫層中にある。覆土は6層に分けられ、2層中から多量の礫とともに一括破棄と思われる遺物が多く出土した。また深さ1.9m付近から湧水が認められた。



第17図　SE02井戸跡

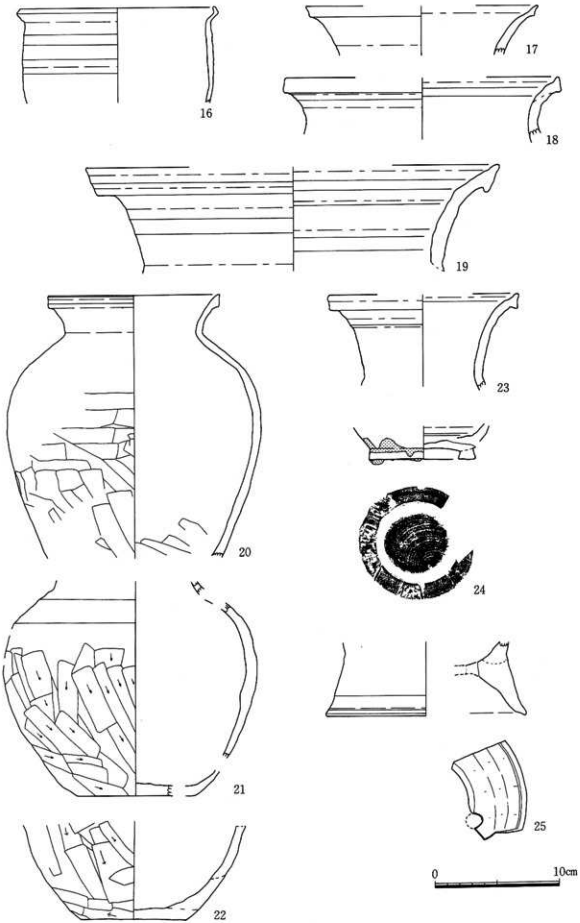
SE02井戸跡出土遺物（第18・19図・図版9・10-1）

掲載遺物はすべて覆土2層中の出土。本遺跡全体の出土量の半分以上（大型整理箱2箱）を占める。遺物はほとんどがロクロを使用している。内面黒色処理の土師器坏が多く、土師器甕は小型のものは少量出土しているが、破片も含めてほとんど出土していない。須恵器は甕・壺類の破片がやや多く出土したが、坏類は少ない。**1**は須恵器坏。$\frac{1}{3}$残存。ロクロ成形。外面底部回転糸切り無調整。推定口径13.2cm、器高4.9cm、推定底径5.0cm。胎土：礫・石英・長石を少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：7.5GY5/1緑灰色、内面：5Y7/1灰白色。**2**から**9**はロクロ成形、内面黒色処理の土師器坏。



第18図　SE02井戸跡出土遺物(1)

2はほぼ完形。外面底部切り離し不明。体部下端と底部共に不定方向の手持ちヘラケズリ。内面底部付近放射状ヘラミガキ、口縁部横位ヘラミガキ。口径13.9cm、器高5.1cm、底径5.7cm。胎土：砂粒・長石少量含む。焼成：酸化・良好。色調：外面：10YR8/6黄橙色。**3**は口縁部を一部欠損する。外面底部切り離し不明。体部下端と底部不定方向の手持ちヘラケズリ。内面底部放射状ヘラミガキ、口縁部横位ヘラミガキ。口径14.5cm、器高4.9cm、底径5.0cm。胎土：石英・赤褐色鉱物少量含む。焼成：酸化・良好。色調：外面：7.5YR8/6浅黄橙色。**4**は口縁部$\frac{1}{8}$弱残存。外面底部回転糸切り無調整。内面ロクロナデ。推定口径13.6cm、器高4.8cm、底径5.9cm。胎土：砂粒・赤褐色鉱物少量含む。焼成：普通。色調：10YR8/4浅黄橙色。**5**は$\frac{1}{2}$残存。外面底部回転ヘラ切り後一部手持ちヘラケズリ。体部下端回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ。推定口径16cm、器高6.0cm、推定底径5.1cm。胎土：砂粒少量含む。焼成：酸化・良好。色調：外面：7.5YR7/6橙色。**6**は口縁部一部残存の底部。外面底部摩耗が激しいが手持ちヘラケズリと思われる。体部下端手持ちヘラケズリ。内面体部下端放射状ヘラミガキ、口縁部横位ヘラミガキ。推定口径14.6cm、器高4.6cm、底径5.6cm。胎土：砂粒・赤褐色鉱物少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：7.5YR7/6橙色。**7**は$\frac{1}{2}$残存。外面底部回転糸切り後一部手持ちヘラケズリ。内面底部放射状ヘラミガキ、口縁部横位ヘラミガキ。推定口径15.0cm、器高4.8cm、推定底径6.8cm。胎土：砂粒少量含む。焼成：酸化・良好。色調：外面：10YR7/4にぶい橙色。**8**は口縁部一部欠損。外面底部回転糸切り後体部下端と共に手持ちヘラケズリ。内面口縁部横位ヘラミガキ。口径13.8cm、器高4.7cm、底径6.3cm。胎土：砂粒少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：10YR8/4浅黄橙色。**9**は底部から口縁部片。外面底部回転糸切り後体部下端と共に手持ちヘラケズリ。内面底部放射状ヘラミガキ、口縁部横位・斜位ヘラミガキ。推定口径14.6cm、器高4.8cm、底径6.6cm。胎土：砂粒少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：10YR7/4にぶい黄橙色。**10・11**は土師器坏。**10**はロクロ未使用の丸底ぎみの土師器坏。$\frac{1}{4}$残存。外面口縁部横ナデ、底部から体部下端不定方向ヘラケズリ。内面横位ヘラミガキ。推定口径11.4cm、器高3.3cm。胎土：砂粒・長石・石英少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：2.5YR5/6明赤褐色、内面：2.5YR6/6橙色で底部付近に二次焼成による黒斑が認められる。**11**はほぼ完形の土師器坏。丸底ぎみ。ロクロ成形。外面底部切り離し不明。体部下端と底部不定方向の手持ちヘラケズリ。内面平滑。口径13.6cm、器高4.3cm。胎土：砂粒・石英少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：2.5YR5/6明赤褐色、内面：10YR7/4にぶい黄橙色。**12～14**は内面黒色処理、ロクロ成形の土師器高台付坏。**12**は高台部と体部下端残存。外面底部切り離し後付け高台。高台「ハ」の字状に開く。菊花紋。内面放射状ヘラミガキ。高台部底径6.4cm。胎土：砂粒・長石少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：7.5YR8/4浅黄橙色。**13**は$\frac{3}{8}$残存。外面底部切り離し後付け高台。高台「ハ」の字状。菊花紋。内面横位・斜位ヘラミガキ。口径14.6cm、器高6.4cm、高台部底径7.1cm。胎土：砂粒・石英・長石少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：7.5YR7/3にぶい橙色。**14**は一部欠損。外面底部切り離し後付け高台。高台「ハ」の字状。菊花紋。内面横位・斜位ヘラミガキ。口径14.9cm、器高5.6cm、高台部推定底径7.2cm。胎土：砂粒少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：7.5YR8/4浅黄橙色。**15**は土師器高坏の脚部片。内面黒色処理。外面ヘラケズリ、内面放射状ヘラミガキ。胎土：砂粒・長石・石英少量含む。焼成：酸化・普通。色調：外面：10YR8/4浅黄橙色。**16**は土師器小型甕。口縁部から体部上半部片。ロクロ成形。推定口径15.8cm。胎土：砂粒・長石・石英を少量、黒色鉱物を多く含む。焼成：酸化・やや不良。色調：内・外面：7.5YR6/6橙色。**17～22**はロクロ成形の須恵器甕。**17**は口縁部片。口縁端部に自然釉一部付着。推定口径18.8cm。胎土：長石含む。焼成：還元・良好。色調：外面：10YR5/1灰色、内面：2.5GY5/1オリーブ灰色。**18**は口縁部片。口縁端部に自然釉一部付着。外面に叩き目の痕跡が認められる。推定口径22.0cm。胎土：



第19図　SE02井戸跡出土遺物(2)

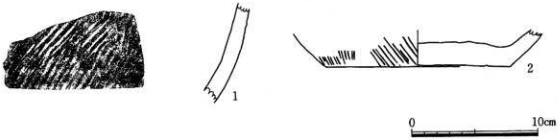
長石・石英少量含む。焼成：還元・やや不良。色調：外面：N5/灰色、内面：2.5YR5/1黄灰色。**19**は口縁部片。推定口径33.2㎝。胎土：長石・石英少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：2.5Y6/1黄灰色、内面：7.5Y8/1灰白色。**20**は口縁部から体部片。外面体部中央から下半部手持ちヘラケズリ。内面体部下端ヘラケズリ。推定口径13.8㎝。胎土：長石少量含む。焼成：還元・良好。色調：内・外面：5Y5/1灰色。**21**は口縁部欠損。外面体部中央から下端手持ちヘラケズリ。体部上半一部平行叩き目の痕跡が認められる。底径9.4㎝。胎土：長石少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：2.5Y5/1黄灰色、内面：7.5YR5/1褐灰色。**22**は底部から体部下端½残存。外面体部下端手持ちヘラケズリ。推定底径8.6㎝。胎土：長石・石英少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：5Y5/1灰色、内面：5Y6/1灰色。**23**は須恵器長頸壺の口縁部片。推定口径15.2㎝。胎土：長石・石英少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：N4/0灰色、内面：N5/0灰色。**24**は須恵器長頸壺の底部。底部回転糸切り後付け高台。外面自然釉が付着。高台部底径8.6㎝。胎土：長石・石英少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：2.5Y5/2暗灰黄色、内面：2.5Y6/2灰黄色。**25**は土師器甑。脚台付きの底部片。ロクロ成形。孔は1つ残存。多孔式であろう。推定底径16.0㎝。胎土：雲母・礫・長石・石英含む。焼成：酸化・良好。色調：内・外面：7.5YR7/6橙色。

SK01土坑跡（第10図・図版4-6）

本坑は調査区北東側で検出された。東側は調査区外となる。平面形は不正形を呈する。規模は南北で180㎝、深さ80㎝である。断面形は一部袋状を呈する。坑底面はやや凹凸がある。覆土は3層に分けられ3層は崩落土であろう。遺物は少量出土している。

SK01土坑跡出土遺物（第20図・図版10-2）

1は須恵器甕の体部片。埋土中出土。外面体部平行叩き。内面当て具痕をナデ消す。胎土：長石少量含む。焼成：還元・良好。色調：外面：5Y5/1灰色、内面：5Y6/1灰色。**2**は須恵器甕？の底部。坑底部出土。外面体部下端平行叩き。底部手持ちヘラケズリ。内面底部指頭圧痕。底径14.9㎝。胎土：礫・長石・雲母含む。焼成：還元・不良。色調：外面：2.5Y6/3にぶい黄色、内面：10YR7/4にぶい黄橙色。



第20図　SK01土坑跡出土遺物

SD01溝跡（第21図・図版4-7・8）

本溝は調査区中央で検出された。Ⅱ層上面で検出され、溝幅は上面で62㎝、底面で30㎝、深さ40㎝で断面「U」字状になる。覆土は2層に分けられ自然堆積を示す。遺物は出土していない。

SD02溝跡(第22図・図版5-1・2)

本溝は調査区中央で検出された。Ⅶ層上面Ⅱ層直下で検出され上幅で45cm前後、底面で20cm、深さは25cm前後で断面「U」字状になる。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD03(第23図・図版5-3)

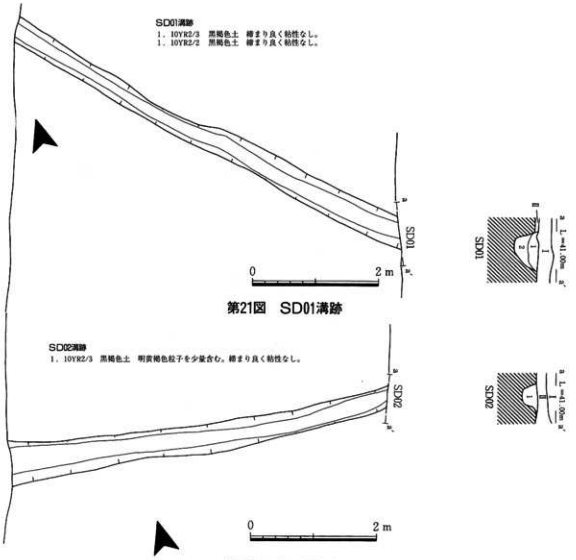
本溝は調査区中央で検出された。ＳＤ04溝跡と重複する。Ⅱ層上面で検出され上幅は66cmで、深さは35cm、断面形は皿状となる。覆土は２層に分けられ自然堆積を示す。遺物は出土していない。

SD04(第23図・図版5-3)

本溝は調査区中央で検出された。ＳＤ03溝跡と重複する。Ⅱ層上面で検出され上幅は45cmで、深さは24cm、断面形は「U」字状となる。覆土は２層に分けられ自然堆積を示す。遺物は出土していない。

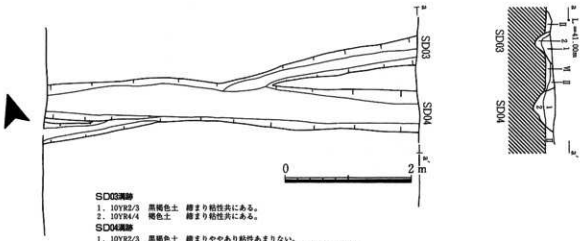
SD05溝跡(第24図・図版5-4)

本溝は調査区中央で検出された。Ⅶ層上面Ⅰ層直下で検出され上幅で95cm前後、深さは13cmで断面皿状となる。覆土は単層である。遺物は出土していない。

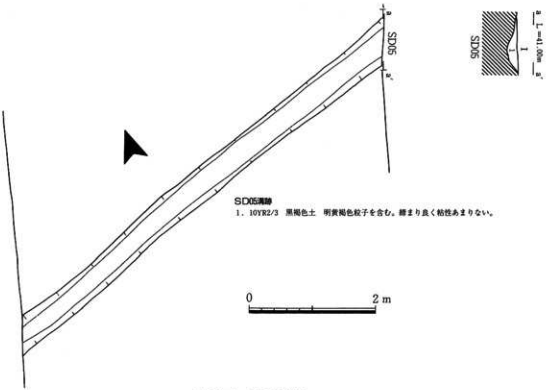


第21図　SD01溝跡

第22図　SD02溝跡



第23図　SD03・04溝跡



第24図　SD05溝跡

遺構外出土遺物（第25図・図版10-3）

遺構外から出土した遺物は調査区北側及び中央部から出土した土師器の坏や甕の破片十数点と調査区南側から出土した縄文土器片５点である。ここでは縄文土器片２点について掲げる。

1は鉢？形土器の体部片。平行沈線・地文RL横位施文か。胎土：砂粒・長石少量含む。焼成：普通。色調：内・外面：2.5YR7/4浅黄色。晩期か。**2**は深鉢形土器の体部片。地文０段多条LR横位施文か。内面に有機物の付着が認められる。胎土：礫・長石含む。焼成：良好。色調：外面：2.5YR6/8橙色、内面：10YR5/2灰黄褐色。時期不明。

第25図　遺構外出土遺物

V　まとめ

杉の堂遺跡は従来より縄文時代晩期と奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されている。本地区では奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡４棟・井戸跡等が検出された。

竪穴住居跡は４棟ともすべてを完掘できず、出土遺物も少量である。その中でＳＩ02･04竪穴住居跡からはミニチュアの手捏ね土器（第11図３・第15図６）が、またＳＩ01竪穴住居跡カマド内からは土製の勾玉（第13図３）が出土している（註１）。ＳＩ04竪穴住居跡のミニチュアの手捏ね土器もカマド内から出土しており、祭祀の可能性もあり注目される。時期はＳＩ04竪穴住居跡からロクロ未使用と思われる土師器坏（第15図３）・鉢（第15図４）、ハケメ整形の土師器甕（第15図５）、底部回転へら切り無調整の須恵器坏（第15図１）が出土している。覆土の最上層から須恵系土器坏（第15図２）が出土しているが他の遺物は床面一括資料であり、この須恵系土器だけが床面から約40㎝浮いた状態で出土しているため時期差があろう。手捏ね土器の出土もあり、奈良時代後半の土器様相を残すもので、概ね９世紀前半代に納まるものと思われる。他の竪穴住居跡は不明な部分が多いがＳＩ02竪穴住居跡はロクロ未使用の甕・ミニチュアの手捏ね土器の他、床下からは外面に段を有する丸底の土師器坏（第11図１）が出土している。このことからＳＩ04竪穴住居跡よりも古くなる可能性がある。これらの土器群はロクロ土師器が定着する前後の段階で、９世紀の前半前後の時期と考えられる。またＳＩ02･03竪穴住居跡は近接しており時間差（ＳＩ02竪穴住居跡が古くなるかも知れない）が考えられる。ＳＩ01竪穴住居跡は他と比べ小型で西側にカマドを設置して異質である。またカマドも壁外に火床部があり長い煙道部を持たない。カマド前面には壁外の掘り込みと同レベルで硬化面が認められた。袖等も検出されなかったため、構造は不明である。ＳＥ02井戸跡は覆土中に多量の土器を含んでいた。一括破棄と考えられる。遺物はほとんどがロクロ成形である。竪穴住居跡群よりもやや新しくなり、９世紀中葉から後半頃と考えられるが、覆土上層出土のものであり、竪穴住居跡群と同一時期の遺構である可能性もある。下層の湧水部分からは井戸側等は検出されず、素掘りと思われる。溝跡は遺物はほとんど出土していないが、表土層直下から掘り込まれたものが多く、近世以降の所産と思われる。遺構外からは遺物はほとんど出土しておらず、南側調査区から縄文時代の土器片が５点出土している。これらは細片で縄文が施文される体部片のみであるが、１点平行沈線が認められ（第25図１）、晩期の所産と考えられる。

杉の堂遺跡は従来より東側縁辺部で縄文時代晩期、南側及び北側縁辺部に奈良・平安時代の遺構・遺物の分布が知られているが、今回の遺跡中央部の調査により、これらの遺構・遺物は遺跡全体に分布するものではなく地点ごとに小規模に分布し、縁辺部により多く分布するものと思われる。

註１　勾玉は熊之堂遺跡の奈良時代の竪穴住居跡のカマド（水沢遺跡群範囲確認調査・平成６年度発掘調査概報－水沢市教育委員会・1996年）から１点出土している。

写　真　図　版

1．調査区南側全景（南から）

2．SI01竪穴住居跡調査状況（東から）

3．SI01竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

4．SI01竪穴住居跡出土遺物（南から）

5．SI01竪穴住居跡カマド調査状況（南から）

6．SI01竪穴住居跡カマド出土遺物状況（東から）

7．SI01竪穴住居跡カマド出土遺物（南から）

8．SI01竪穴住居跡完掘（東から）

図版2

1．SI01竪穴住居跡掘り方（東から）

2．SI01竪穴住居跡カマド焼土立割り（南から）

3．SI02竪穴住居跡完掘（南西から）

4．SI03竪穴住居跡調査状況（南西から）

5．SI03竪穴住居跡完掘（南から）

6．SI03竪穴住居跡カマド調査状況（南から）

7．SI03竪穴住居跡カマド煙道調査状況（西から）

8．SI03竪穴住居跡カマド完掘（南から）

1．SI04竪穴住居跡遺物出土状況（南東から）

2．SI04竪穴住居跡完掘（南東から）

3．SI04竪穴住居跡カマド調査状況（南東から）

4．SI04竪穴住居跡カマド煙道調査状況（北東から）

5．SI04竪穴住居跡カマド袖調査状況（南東から）

6．SI04竪穴住居跡カマド完掘（南東から）

7．SI04竪穴住居跡カマド掘り方（南東から）

8．SI04竪穴住居跡南東側掘り方（南東から）

図版4

1．SE01井戸跡完掘（北西から）

2．SE02井戸跡調査状況(1)（南から）

3．SE02井戸跡遺物出土状況（北から）

4．SE02井戸跡調査状況(2)（北から）

5．SE02井戸跡完掘（北から）

6．SK01土坑跡遺物出土状況（西から）

7．SD01溝跡調査状況（西から）

8．SD01溝跡完掘（西から）

1．SD02溝跡調査状況（西から）

2．SD02溝跡完掘（西から）

3．SD03・4溝跡完掘（西から）

4．SD05溝跡完掘（西から）

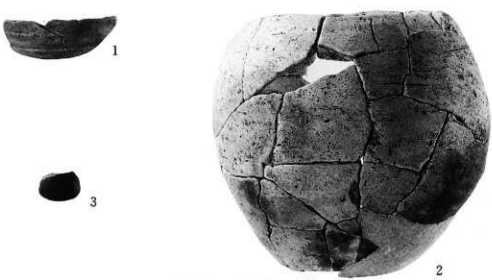
5．北側空撮

図版6

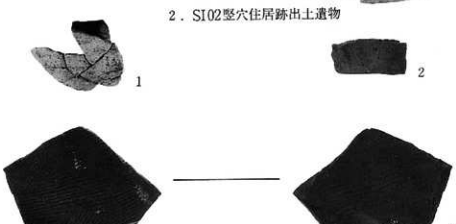
1．中央部空撮

2．遺跡全景（空撮）

1．SI01竪穴住居出土遺物



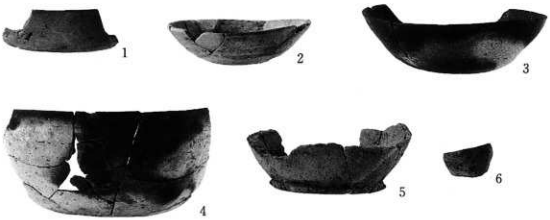
2．SI02竪穴住居跡出土遺物

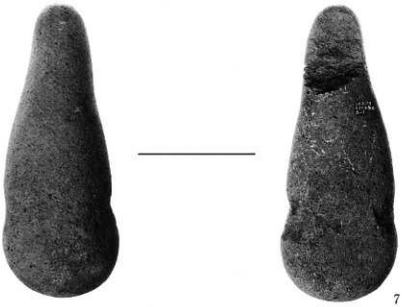


3．SI03竪穴住居跡出土遺物

出土遺物(1)

図版8

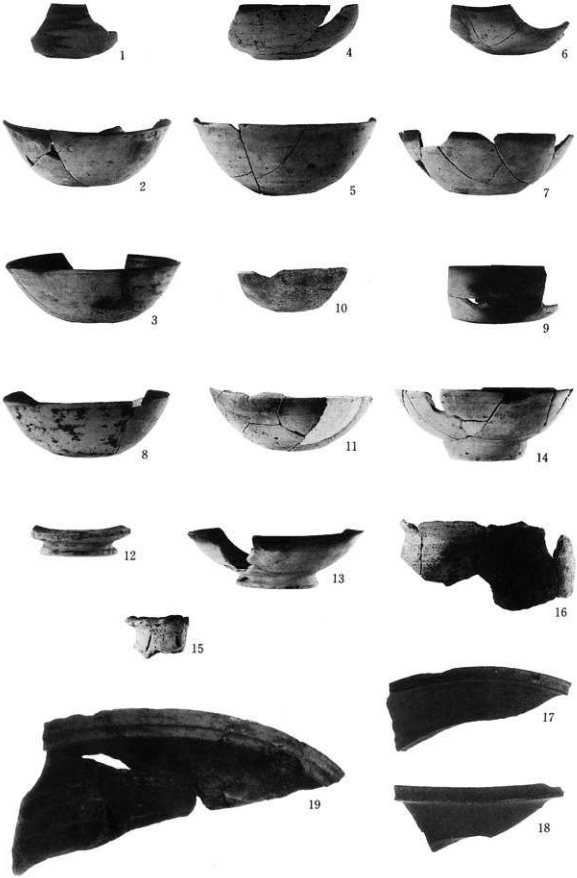




1．SI04竪穴住居跡出土遺物

2．SE01井戸跡出土遺物

出土遺物(2)



SE02出土遺物(1)

出土遺物(3)

1．SE02井戸跡出土遺物(2)

2．SK01土坑跡出土遺物

3．遺構外出土遺物

出土遺物(4)

報 告 書 抄 録

ふりがな	すぎのどう　いせき
書名	杉の堂　遺跡
副書名	－市道杉の堂北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ－
巻次	
シリーズ名	水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第13集
編著者名	千田幸生
編集機関	(財)水沢市文化振興財団　水沢市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒023-0003　岩手県水沢市佐倉河字九蔵田96-1
発行年月日	西暦　1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
杉の堂遺跡 (すぎのどういせき)	佐倉河字 (さくらかわあざ) 杉の堂 (すぎのどう)	03024	NE27 -0100	39°8′10″	141°10′10″	1998.7.24 ～ 1998.10.9 1998.11.30 ～ 1998.12.19	1,030	道路改良工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
杉の堂遺跡	集落跡	奈良・ 平安時代	竪穴住居跡　4棟 井戸跡　2基 土戸跡　1基 溝跡　5条	土師器 須恵器 土製品	

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第13集

杉の堂遺跡

ー市道杉の堂・北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅱー

平成11年3月31日　発　行

編集 / 発行　財団法人　水沢市文化振興財団
水沢市埋蔵文化財調査センター
〒023-0003 水沢市佐倉河字九蔵田96-1
電　話　0197－22－4400
ＦＡＸ　0197－22－4600

印　　刷　鈴木印刷株式会社
〒023-1101 江刺市岩谷堂字松長根15-5
電　話　0197－35－4515